

「友愛」理解のために



2008年5月10日

財団法人日本友愛青年協会

常務理事 川手 正一郎

目 次

はじめに

. 友 愛 の 原 点

1. 友愛とは
2. 友愛思想と友愛革命
3. 友愛社会

. これからの友 愛

. 友 愛 の 功 績 者

. 友 愛 の 歴 史

. 友 愛 関 係 団 体

はじめに

日本で友愛がスタートして既に 55 年の歳月が流れました。昭和 28 年(1953)、戦後の混乱をどう克服すべきか、国家としての再建や将来について、日本の為政者には難題が山積していました。

そんな混乱の時代に、鳩山一郎先生は自ら訳された「自由と人生」を原典とした、友愛思想、友愛革命、友愛社会を提唱され、友愛こそ日本再興のテーゼであり、友愛を原点とした青年運動の展開はこれからの日本発展の原動力であると友愛青年同志会を結成され、自ら会長となり 10 万人の会員を主導し、当時の日本の政財界はじめ、日本の思想や文化に大きな影響を与えました。そして、政治家としては内閣総理大臣をはじめ 55 年体制を確立し、初代自由民主党総裁に就任。日ソ国交回復、国連加盟、等、友愛思想に基づく数多くの政治的懸案を解決。戦後日本の躍進に大きな貢献をされました。これが友愛運動の曙光です。

昭和 28 年(1953)以降、友愛は鳩山一郎先生の日本での友愛運動の理念である、人間の人格の尊厳を基調としての相互尊重、相互理解、相互扶助(協力)の友愛 3原則を活動のベースに友愛青年同志会、友愛青年連盟、財団法人日本友愛青年協会と時代の変化に対応しての名称変更を行いながら現在も社会団体のリーダーとして活動をつづけております。

尚、これからも友愛はクーデンホフ・カレルギー伯、鳩山一郎先生の友愛を 21 世紀にどう活かしていくのか、時代の変化を的確に捉えながら友愛社会の具現化に向けて一步一步確実に前進して行きます。

. 友愛の原点

1. 友愛とは

『自由と人生』 原名 Totalitarian State Against Man
著者 リヒャルト・クーデンホフ・カレルギー 1938年刊
訳者 鳩山一郎 発行所 乾元社 昭和28年(1953)1月1日刊

友愛とは、上記「自由と人生」に記されている友愛思想、友愛革命、友愛社会に則る考え方ではありますが、この友愛思想は完全な理論体系があり、それを信奉するというのではなく、友愛の基本的考え方をより多くの人々に討議していただき、研究し友愛思想を完成して行く、謂わばこれからの課題であります。

因に、カレルギーは1935年(出版1938年)にFascismやBol'shevizmの終焉を予告し、技術の進歩は階級闘争や貧窮、それに当時まだ残っていた奴隷制度までも無くし、社会を大きく変えると宣言していました。

そして人々が個の確立をはかり、母性的感情は友愛の根源であり、それを原点としての社会や国家を同心円的に作り上げていくと説いております。

また、人間としての最高の義務は自己完成であるとし、日本的に譬えれば、修身、齐家、治国、平天下(大学の礼記の一編)がその基本であり、その目的を達成する為には教育改革を行い、全ての人間は、人種、宗教、言語、階級を問わず、兄弟姉妹であり、同一の神の子たることが大切であるとして友愛主義の淵源と友愛革命の必要性を提唱したのです。

2. 友愛思想と友愛革命

カレルギーは「自由のための改革が立往生し、平等のための革命が失敗した後をうけて、友愛主義の革命は今や国民と国民との間、階級と階級の上に橋を渡し、もって彼ら全部に対し、自由なる人間が四海同胞たることの福音を伝えるであろう」と、述べて友愛革命の必要性を強調しました。

この友愛革命とは、どのようなものであるかを考えるためには「友愛」という思想そのものを理解しなければなりません。クーデンホフ・カレルギーは自由と平等との対立を解消し、克服するのが友愛主義であると記し、友愛の基本をフランス革命の友愛に依拠していると説明しています。

友愛という考え方は、宗教では、隣人愛、自愛、即他愛、等、広く一般的に知られておりますが、カレルギーは「フランス革命は、自由、平等、友愛を目標として起こりましたが、そこには自由の革命はありましたが平等と友愛の革命はなく、しかも自由と平等は対立関係のままにされ、その上経済的平等は誰も望むところですが自由が存在しなければ全く価値のないもの」と、述べています。さらに自由放任の社会は経済的不平等、富の偏在、貧困の差をより大きくし、如何にして自由と平等の対立関係を調和せしめるのか、カレルギーはこの対立解消のベースに友愛主義を提唱し、人々の間に具体的に浸透する方途として友愛革命を掲げました。

革命という言葉はともすればテロを想像されるかも知れませんが、カレルギーの説く革命はそんな力による革命でなく、人間一人ひとりの心の中における革命です。人々の心の中に友愛をうえつけ、或は人間本来の持つ人類愛そのものを喚起することにより友愛は達成される革命である。そして人の心の革命は暴力や強制力でなく、相互に人間が人間としての人格の尊厳を尊重することであり、人間の生まれながらにして持つ権利であると説き、その権利は国家や社会のすべての制度に優越するものだと言明しています。従って社会の政治や経済の諸制度もこの考え方をベースにしなければなりませんし、このような考え方に基づく友愛社会は友愛主義の理想であり、心の革命のそれぞれの段階に従って少しずつ改善されて行くべきものであるということです。

3. 友愛社会

カレルギーによれば、友愛革命の目標は友愛社会であり、具体的には Lady と Gentleman によって構成されるような社会と主張しています。理想的な Lady と Gentleman とは、完全無欠な神かも知れませんが、人間社会としては窮極の理想的社会であるように想われます。

クーデンホフ・カレルギーは自著の中で Gentleman の理想について次のように記しています。

「聖僧の如き、道徳的優秀性をも天才の如き、智的卓越性をも要求しない。いやしく普通の才能と才識を具備した人ならば、全然人間的であり、この理想に到達することが出来る。」

すなわちカレルギーは、普通の才能と才識を持つ人ならば Gentleman になることが出来る」と述べているのです。しかし、彼の考えている Gentleman は中世ヨーロッパの武士道から英国型 Gentleman を想定していることに注目してはなりません。

彼は英国の紳士淑女の具体像として、優雅、教養、懇勤、真摯、愛嬌、清潔、等々をその特性として解説しています。ただ、Gentleman は男子として肉体的優越により、Lady を尊敬し保護する道徳的義務を課されると述べてもいます。

このようなカレルギーの説く Lady と Gentleman は理想ですが、日本人として考えても充分理解することはできますし、努力如何によってはその理想に近づくことも可能と想われます。けれども一人だけこのような理想を目指しても社会が悪ければ結果としては仕方ないと現実逃避になりがちですが、カレルギーは当時の政治社会に対し極めて興味深い論述をしています。それは「今日の政治は部分的には無頼漢の手中に握られている」という痛烈な言葉から始まり、政治家はその「敵を欺いたり、契約を破棄したり、友人を裏切ったり、他人を不意打ちしたりすること等を自慢にしており、自分をもって善悪、是非、尊卑、貴賤を超越した存在の如く考え、しかもこのような行動によって大多数の世論の支持を得たものとうぬぼれているようなやから」と論じています。彼の著書は 1938 年出版されましたけれども、われわれは現在の世界と日本の政治をどのように考えるのか参考にし

たいところ です。

また、現在の日本の政治の混乱は友愛をベースに考えますと、今こそ多くの国民の皆様のご理解をいただき、議会政治と民主政治の在り方を徹底的に探求する時とも思われます。カレルギーはこの点について、「この紳士と淑女という理想の将来が政治の将来にとって決定的なのだ。この理想が一般に行き渡らぬ以上は、どの政治家も勝手に証文を破棄したり、あるいは最初から実行する意志のないような約束を選挙民にしたりするようなこととはばからずに行うのである。この理想が確立した時こそ民主政治が初めてその磐石でゆるぎない基礎の上に据えられる時なのだ。このような時が来た際に選挙民は初めてその財産を管理し、あるいはその子の後見を依頼し得るような端正な人物、即ち紳士にその政党と国家との指導を寄託することが出来る。」と述べておりますが、これを単なる理想と感ずるのかどうか、皆様の英知に期待したいと思います。

以上の論述から推量できますが、カレルギーは民主政治のあるべき姿と国民の役割を正しく指し示していると謂えるのです。

私達が現在為すべきことは何かと考えますとそれは Lady と Gentleman に少しずつ近づぐことです。そして選挙を通じてこの理想に近い政治家を選ぶことです。それぞれは個人として、そして社会人として、その役割をどう考えるのか。またこれを理想として捉えるのか、現実としてどう理解するのか、それが友愛の出発点でもあります。

友愛社会は極めて理想的な社会であります。単に抽象的に理解するのではなく、現実的な社会として理解していただくことが大事です。

友愛社会は遠い将来かも知れませんが、しかし現実の問題でもあるのです。確実に一歩を進めることが未来を拓きます。これが友愛の課題でもあり、これからの社会の課題でもあります。

. これからの友 愛

友愛の原点につきましては簡単に前項で記しましたが、これからの友愛について考えてみたいと思います。

友愛の基本は人間としての在り方ですが、そんな観点から人間をみますと人間は人間社会ばかりでなく、人間の生存に係わる自然を含めての問題を探求していくことがこれからの人間社会の継続に欠かせぬ要件でもあるように思います。

人類の誕生は謎ですが、しかし自然の中で多くの動植物とともに変化し、進化し、今日に至りました経緯を鑑みますと人間は生まれながらにして自然と共生すべきであり、人間だけの永続的生存は不可能であり、人間自身もまた、人種、宗教、民族、言語による差別や疎外は争いの元凶であると同時に自然の摂理に反し、人間自身の滅亡に繋がる危険な兆候でもあります。

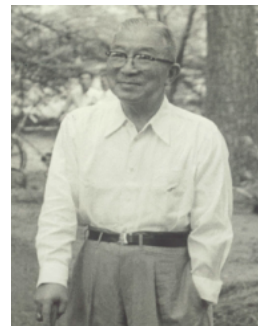
これから人間は、常に人間だけでなく自然の全てを含め、相互にその尊厳を尊重しなければならない時代です。そんな観点から 21 世紀を考えますと、人間は人間自身の壁をどう越えるのか、英国の紳士も淑女も、日本の和の文化も、また宗教の真理も、そして人間の将来も、その目標は人間の欲望をどうコントロールするか、そしてそれが究極の問題であることを全ての人間は周知しており、友愛の基本も同根であり、人類の永続性はそれを窮め、克服すること、そしてそれ以外に未来は輝かないことを理解し、認知すべきですが、友愛も結成以来すでに 55 年、人間を取り巻く環境は大きく変化し、人間の在り方を改めて真摯に考えねばならぬ時代となりました。

21 世紀の友愛はそんな変化をしっかり把握し、自然との共生や人間自身の問題に対し積極的に取り組み、友愛理論の構築をすすめながら友愛としての提言を行い、世界のより多くの人々に友愛の輪を広げ、友愛社会実現のムードを昂めていければと念願しております。

. 友愛の功績者

鳩山 一郎

日本で最初に友愛思想を提唱
友愛運動を主導した政治家
第35代内閣総理大臣



明治 16 年(1883) 1月1日 東京にて出生

弁護士 衆議院議員当選 15 回
内閣書記官長 文部大臣

昭和 28 年(1953) 1月 『自由と人生』 出版

昭和 28 年(1953) 4月 29 日 友愛青年同志会結成 会長就任

昭和 29 年(1954) 12 月 10 日 第 35 代内閣総理大臣 就任

昭和 30 年(1955) 11 月 15 日 自由民主党 初代総裁
(保守大合同 55 年体制確立)

昭和 31 年(1956) 10 月 19 日 日ソ国交回復

昭和 31 年(1956) 12 月 18 日 日本国連加盟

昭和 31 年(1956) 12 月 23 日 内閣総理大臣 辞任

昭和 34 年(1959) 3月7日 逝去 76 歳

青山 光子

クーデンホフ・カレルギーの母



明治 7年(1864) 7月 16日 東京青山にて出生

明治 24年(1881) オーストリア大使館
代理公使ハインリッヒ・クーデンホフ・
カレルギー伯爵と結婚

明治 27年(1884) 11月 16日 リヒャルト・クーデンホフ・カレルギー 出生

明治 29年(1886) 夫とともにオーストリア 帰国

明治 39年(1906) 5月 14日 夫ハインリッヒ伯爵 逝去 47歳

昭和 16年(1941) 8月 28日 オーストリア ウィーンにて逝去 76歳

オーストリア代理公使リヒャルト・クーデンホフ・カレルギー伯爵に見初められ明治 24年結婚。日本人として初めて海外の名家に嫁いだ女性。オーストリア帰国を前にして、昭憲皇太后から拝謁を仰せつけられ令旨を賜った。

また、クーデンホフ・カレルギーが汎ヨーロッパ運動を開始後「EECの母」という名称をヨーロッパ各国から与えられた。

EEC = European Economic Community

クーデンホフ・カレルギー

友愛思想・友愛革命・友愛社会を提唱
汎ヨーロッパ運動主催者
『自由と人生』著者



明治 27 年(1884) 11 月 16 日 東京にて出生 光子の次男
幼名 青山栄次郎

明治 29 年 オーストリア帰国

大正 12 年(1923) 10 月 汎ヨーロッパ出版 29 歳
汎ヨーロッパ運動開始
EEC の原点となる
EEC はその後の EU に発展

昭和 10 年(1935) Totalitarian State Against Man
(全体主義国家対人間) 出版
日本版『自由と人生』鳩山一郎 訳
昭和 28 年(1953) 1 月 1 日出版
その他著書多数

昭和 25 年(1950) シャルル・ヌーニュ賞 受賞

昭和 26 年(1951) ノーベル平和賞候補者となる

昭和 41 年(1967) 10 月 26 日 11 月 8 日 友愛青年同志会
NHK 鹿島平和財団の招請により来日
天皇、皇后、謁見
第一回鹿島財団平和賞受賞

昭和 45 年(1970) 10 月 6 日 28 日 来日

昭和 47 年(1972) 7 月 29 日 逝去 87 歳

. 友愛の歴史

1. 友愛青年同志会 昭和 28 年 4 月 29 日 結成

初代会長 鳩山 一郎 (昭和 28 年 34 年)
二代会長 鳩山 薫 (昭和 34 年 49 年)
三代会長 鳩山 威一郎 (昭和 49 年 平成 5 年)
昭和 48 年 友愛青年連盟と称号変更
四代会長 鳩山 邦夫 (平成 5 年 10 年)
平成 10 年 財団法人日本友愛青年協会に併合

2. 友愛青年連盟

昭和 48 年 5 月 8 日 友愛青年同志会を称号変更
平成 10 年 3 月 財団法人日本友愛青年協会に併合

3. 財団法人日本友愛青年協会 昭和 34 年(1959) 6 月 1 日 設立

初代理事長 鳩山 薫 (昭和 34 年 49 年)
二代理事長 鳩山 威一郎 (昭和 49 年 平成 5 年)
三代理事長 鳩山 安子 (平成 5 年 17 年)
四代理事長 鳩山 由紀夫 (平成 17 年)

. 友愛関係団体

・友愛婦人会 昭和 33 年(1958) 3 月 6 日 結成 以来今日まで積極的な
活動を継続

・友愛クラブ 昭和 42 年(1967) 8 月 9 日 発会
現在まで 452 回(08・4・9)の
定例勉強会開催